フィールド風（現場）からの ㉑

宮田守男

今の自分を超えたいと考え 続ける大切さを改めて知る

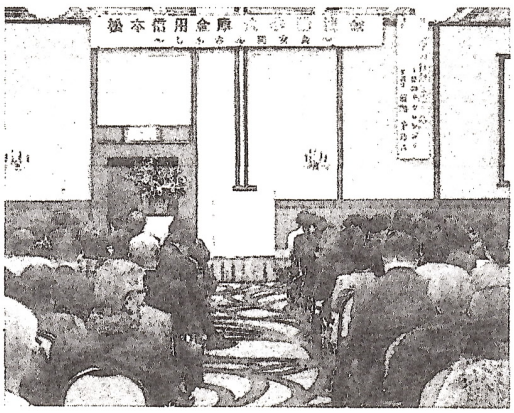
10月中旬、しんきん同友会が主催する松本信用金庫秋季講演会が松本市ホテルブエナビスタで行われ聴講する。講師は弁護士の菊間千乃（ゆきの）さん、テーマは「今の自分を超える～私のチャレンジ」。アナウンサーとしてフジテレビに入社、「森田一義アワー　笑っていいとも」、「発掘あるある大事典」やバレーボール中継などでマルチに活躍していたが現在は弁護士として活躍。先着300名の定員を、会場入場可能な800名を超える受付対応にも以後の申し込みをお断りする人気の講演会。会場は、ほとんどが女性だが、いつもと異なり青年の姿も多く雰囲気に圧倒される。

リポーターを務めた番組で、災害時に高所から脱出する避難器具の体験リポート中、マンション五階の窓から落下し地上のマットに叩きつけられ重傷を負った事故やバレーボール中継後に、会社の同僚と当時未成年だったNEWSのメンバーとの飲酒の誤解が原因で、無期限謹慎処分を受けたことなど聴講者も事前知識があり、なぜ弁護士となったのか興味があるようだ。

講師の入場の案内に、いつも入場する後方に注目したが演題横手のスタッフ通用口からの入場に皆驚く。アナウンサー時代に培った仕草に好感を持つ。2時間、早いピッチで話し続ける菊間さん、滑舌も良く話術に引き込まれる。小学3年の時に早稲田大学入学を、小学6年の時に職業はアナウンサー、大学4年の時に弁護士の目標を立て、今の自分を超えるにはと思い続けることが大切。なりたい自分を創造することで明日から何をすべきか考えることで、自分らしい目的が持てるとの話に共感が持てる。

今の状況を愚痴るのではなく、その先に何があるのか見たいとの気持ちから、六法全書で人を助けることができると弁護士に転職した経過。司法制度改革によって現在の司法試験制度に切り替わって合格率は高くなったと言っても超難関の試験。知識の蓄積だけではなく、なぜ弁護士を目指すのか、目的意識とやりがい、そして自分らしい戦略が必要なのだろう。

30件の案件を持ち、日々10件の案件の処理、睡眠時間3時間半のスケジュールの過酷さに驚くが、その中でもマラソン大会の完走を目的に毎日2時間半のランニングをする生き方は本当に人生を楽しんでいるのだろうとうらやましく感じた講演でもあった。（NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上）



開演30分前で会場には大勢の聴講者、弁護士ですので握手・サインはご遠慮くださいの案内が司会から連呼される